中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 神経活動依存的な神経回路形成を支える情報表現機構の解明
2. 研究代表者： 中嶋 藍（東京大学 大学院薬学系研究科 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

嗅球の in vivo Ca²⁺イメージング法を開発したことで、大きな成果に繋がってきている。フェーズ2では、嗅覚回路のメカニズム解明を中心に研究を進める計画で、時間がかかる研究であるが、創発研究としてふさわしく、成果に期待する。

以上